

## <ワン・ポイント・レクチャー> “いのち”を紡ぐコース

### 第4回：病院・医療者をピンにするもキリにするもしないもあなた次第

この場合のピンというのは、あなたにとって最善の利益をもたらしてくれるような関わりを持ってくれるということで、キリというのは、「素人なんだから、専門家に任せておけばいいんだよ」という態度で接してこさせてしまい、本来、あなた自身の体のことでありながら、その治療などについてあなた自身が判断し決定する権利を奪ってしまうことと理解してくださいね。

また、ピンにするために必要なことがあります。まずは、医師も決して“偉い”という訳ではなく、単に限られた領域の知識を豊富に学んで修得しているというだけの一専門職だと認識することです。ただ、日本人にとっては、そのように認識して関わるのは難しいこと、抵抗のあることかもしれませんね。もしそうなら、そのように思うように努力だけはしてくださいね。その努力が足りないと、キリにしてしまうことになり、不利益を被るのは貴方とその家族だけということになりますから。

さて、こちらが知りたい情報を、こちらが理解できるレベルで説明してくれる医師が、信頼に足る医師です。そのような説明してくれる医師には、なかなか出会えないかもしれませんが、そのような説明を求める続けることによって、そのような信頼に足る医師に育て上げることは可能です。患者であるあなたが人間的にも優れた医師に育てることにより、あなた自身、患者としての権利である「医師に自由に質問をする権利」「治療内容を選択する権利」「治療を拒否する権利」「同意したことを撤回する権利」「診療自体を拒否する権利」「医師を選ぶ権利」「真実を知る権利とその権利を放棄する権利」などを正当に行使することが出来るようになるのですね。

ただ、権利だけを主張してはダメです。賢い患者であるためには、医師・医療者に対する配慮、例えば「症状、病歴や治療歴は予めメモを作って診察に臨む」ことで時間の短縮を図るとか、「自覚症状や痛みのある部位はできる限り正確具体的に伝える」ことで診断がつきやすくするとか、「出来る限りメモを取りながら説明を聞く」ことで、別の人間に対して同じ説明を繰り返させないと言ったことが医師・医療者—患者関係を作り、医師・医療者をピンにする上で、最低限、必要なことではないでしょうか。